

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	6月	13日	(記入者) 久門たつお	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天川村：永豊寺の二天立像（多聞天、広目天）				

所在地	吉野郡天川村和田436				
所有者（取材 対応者）名	乾井（いぬい）和軌住職母の * * さん （個人情報守秘）		連絡先 0747-65-0057		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：永豊寺				
市町村 指定文 化財	彫刻	2 軀	二天立像（多聞天、広目天） 1994（平成6）年6月3日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	桧材の一木造りの天部形像で、四天王像の二軀か、当初から二天だったのかは不明だが、山間部では稀に見る優秀作である。（村HPから）				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	1990（平成2）年に鉄筋コンクリート瓦葺きの耐火構造の収蔵庫を県の補助を得て建造し、木造釈迦如来坐像、二天立像などを安置。消火器の配備、火災報知機の設置、近くに消火栓とホースも設置している。	消防署からは年2回、消防機器チェックなどのため訪問してもらっているとのことで、問題はないと思われる。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	山間地で和田地区にもイノシシ、シカ、サルなど出没し、農作物に被害が出ているが、幸い寺には影響はない。	引き続きお寺に被害が出ないことを祈りたい。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	永豊寺では釈迦如来坐像が1966（昭和41）年に県指定、二天立像が1994（平成6）年に村指定になった。収蔵庫は1990（平成2）年に建造され、二天立像は釈迦如来坐像などと共に収蔵庫に安置、防火・獣害防止・防犯の役割を十二分に果たしているように思われた。高床式の収蔵庫は通気性確保のため床と天井に通気孔が設けられ、効果を上げていように見受けられた。収蔵庫建設の意義・効果がみられる好例と言え、建設予算確保の問題をクリアするのは簡単ではないが、文化財保存のため所有社寺と県・市町村が連携してより広がることを期待したい。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

吉野郡の各町村の過疎化は急ピッチで進行しており、天川村も同様だ。和田地区は1960年代は40戸あったが、現在は13戸で、人口減少は否応なく進行している。当然、過疎地での寺院の運営も厳しさが増しており、永豊寺では住職（39）が天川村、黒滝村の各1カ寺の住職代理を掛け持ちしながら、社会福祉協議会職員として「2足のワラジ」で働いているという。住職は「息子もいるが、今後、地区の住民が減り続ければ住職を引継いでもらえるかどうか分からない」と語る。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	6月	13日	(記入者)久門たつお	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天川村：永豊寺の二天立像(多聞天、広目天)				

〈写真撮影許可済み〉

文化財指定名 二天立像（多聞天、広目天）

二天立像のうち広目天（向かって左）



二天立像のうち多聞天（向かって右）



釈迦如来坐像（中央、県指定）と二天立像



二天立像などを安置する収蔵庫



文化財の由緒などを記入

両像とも桧材の一木造りで、像高90cmほど。兜をかぶり、腹部に鎧を着け、邪鬼を踏まえた定型的な天部となっている。共に平安時代ごろの制作と見られているが、四天王像の二軀か、当初から二天だったのかは不明。戦前までは日照りが続くと地区住民が広目天を近くの天ノ川の石の上に移し、水をかけて雨を祈ったので、「洗い仏」ともいわれる。

所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

寺伝によると、室町時代中期に浄土真宗本願寺派第八世法主の蓮如上人が吉野地域でも布教活動に力を入れ、永豊寺も1473（文明5）年に同本願寺派となった。その前は曹洞宗寺院だったようで、転宗に伴い本尊は釈迦如来坐像から阿弥陀如来立像に代わり、釈迦如来坐像と脇侍の多聞天、広目天は近年まで本堂横の小堂に安置されていた。釈迦如来坐像が1966（昭和41）年に県指定となった縁で収蔵庫が建造され、現在地に移った。